

推敲あれこれ

福士りか×高野公彦

.....

⑬



◆修飾語は控えめに

高野 歌の推敲について、電話対談という形で選者の皆さんにお話を伺っていただきます。今月は福士さんに登場していただきます。幾つか推敲例を用意してもらいました。「もしこれが自分の作品だったら、こう直したい」という具体的な例です。

紙オムツずつしり重く休みつつ病院までをゆつくり歩く (原作)
紙オムツずつしり重し休みつつ病院までの並木道ゆく (改作)

福士 これは「ずつしり」「ゆつくり」、二つの修飾語が出てくるのが煩わしいので、一つを削りました。

高野 三句目で「休みつつ」と言っていますから、「ゆつくり」は要らないですね。

福士 その代わりに「並木道」を入れました。

高野 いいですね、映像が浮かんできます。それに「重く」を「重し」と直したのも見事です。歌が引き締まりました。

たちねの母の両耳遠くなり子らの話を
すを見つめてゐたり (原作)
九十の母の両耳遠くなり話すわれらを見つめてゐたり (改作)

福士 枕詞が出てきます。枕詞は、独特の働きをするんですが、この歌では年齢を入れて歌をリアルにしたほうが良いと思って「九十」としました。

高野 この歌で枕詞は有効に働いていませんね。改作は「子らの話を」を「話すわれらを」と直したのもいい。
福士 そうしないと、「子ら」の中に作者がいるのかどうか、分からないので。
高野 年齢のところ、「九十歳」と表記しないのもいいですね。
福士 そんなことをしたら、高野さんに叱られますから(笑)。

◆一首をゆつたりと

みのししに荒らされし芋を籠につめ足
取り重く野道をゆけり (原作)
みのししに荒らされし畑にころがれる
芋を拾ひて籠に入れたり (改作1)
みのししに荒らされし芋の畑より芋を
拾ひて籠に入れたり (改作2)

福士 原作は「いのししに畑を荒らされて。その畑で芋を拾って籠に詰めた。そして、とほとほと野道を帰った」という内容です。事柄を順々に細かく述べていて、散文的です。ゆつたり感がない。

高野 全否定ですね(笑)。それで、「野道をゆけり」まで言わずに、芋を拾って

いる場面で止めた。いいですねえ。

福士 でも改作1は、原作よりも動詞が増えたので、さらに推敲したのが改作2。

高野 これで完成ですね。

いつばいのお茶が花見の酒代はり認知の母はそれでも笑ふ (原作)

いつばいのお茶が花見の酒代はりほんのりと笑む認知症の母 (改作)

福士 これは、認知症のことを「認知」で済ませるのは無理なので、きちんとした言い方に直しました。

高野 結句に「認知症の母」を置いたのも韻律的にいいですね。また「それでも笑ふ」は理屈っぽいので、「ほんのりと笑む」のほうが自然でいいと思います。

◆「ひもとく」は通俗的

著書一つ「白痴」ひもとき供養せり二

月十七日の安吾忌 (原作)

著書一つ「白痴」を読み過ごしをり

二月十七日の安吾忌 (改作)

高野 ここから私の用意した推敲例です。

本を読むことを「本をひもとく」と言うのは気取った決まり文句なので、普通の「読む」に直しました。

福士 そのほうがいいですね。

高野 それから「供養する」とまで言わなくてもいいと思うので、普通に「本を読んで過ごす」にしました。

福士 自分の行為にあまり意味を持たせないで、さらりと表現するという方向ですね。

高野 ええ。

福士 演技めいたことを嫌う高野さんの態度が反映された直し方です(笑)。

◆語順に注意

スーパーにコロナ自粛のささやかな楽しみとして鯖寿司を買ふ (原作)

スーパーに鯖寿司を買ふコロナ禍の或る日小さな楽しみとして (改作)

高野 これは「スーパーに」を受ける部分分が結句の「買ふ」なんです。内容的には良い歌なのですが、「スーパーに」と「買ふ」はもつと近くにあったほうが読みやすい。それで直しました。

福士 「スーパーに」の直ぐ下に「鯖寿司を買ふ」が出てきますから、このほうが分かりやすいですね。

高野 さらに言えば「買ふ」は終止形か連体形か分からないので、「スーパーに鯖寿司買へり」としたいです。

忘れ物することよりも語気荒く子に叱らるること悲しかり (原作)

忘れ物することよりも語気荒く子に叱らるることの悲しも (改作)

高野 福士さんは日本語の文法に詳しい人なのでお聞きしますが、「悲しかり」は終止形ではなく、連用形でしょうか？

福士 ええ。これは石川啄木の「かにかくに洪民村は恋しかり／おもひでの山／おもひでの川」などの影響ですね。

高野 それで終止形「ことの悲しも」にしましたが、福士さんはどうします？

福士 例えば「ことの悲しゑ」という古代的な言い方もありますが、私はあつさり「ことの悲しき」にします。

高野 素直な人ですね(笑)。本日はどうもありがとうございました。

イラスト「鬼に金棒」(高野公彦画)